

A-21 御在所岳 中尾根バットレス

【山行日】2021年7月23日

【CL】3547 【参加者】3314、3317、3447

【コース】8:00 日向小屋…9:15 バットレス基部(荷物の一部をデポ)…10:00 中尾根バットレス登攀開始…14:30 4P 目終了点…懸垂下降 50m1 回 30m1 回…15:10 バットレス基部…16:30 日向小屋

御在所岳中尾根の側壁中尾根バットレスを登った。大きな一枚岩のスラブ登攀で、全力を出し切らないと登ることができない好ルートである。全4ピッチ。グレードは1ピッチ目から順に5.10a、5.10b、5.10a、5.12a。最後の4ピッチ目は極めて困難なグレードが付けられている。このため4ピッチ目のためにあぶみを持参した。

バットレスの基部に、使わない装備類をデポして登り始めた。我々のパーティー以外には誰も居なかった。

1ピッチ目。ボルトを頼りにスラブを這い上がって右上し、カンテ沿いを登る。カンテの途中で先行班のフォローに追いついてしまい、リード状態のまま岩の途中で静止を強いられる破目になった。中間支点のボルトは既に通過して足の下だ。そのままの姿勢で待つこと1分。先行班が登って行き、事なきを得た。このピッチはハング下まで行き、そこでビレイしてフォローを上げる。

2ピッチ目。ハングを越えると傾斜の緩いスラブだが、ボルトの数が少なく怖い。ボルトを過ぎたら、覚悟をもって行くしかない！

3ピッチ目。既存の支点が全くないフレック状クラックを登る。クラックが消えた後は、微かなスラブ。

4ピッチ目。5.12a という超難関グレードのため、フリーでは登れず、出だしの垂壁であぶみを使う。カンテの上に出ると易くなるが、ロープが屈曲するため、リードは摩擦でロープが重い。

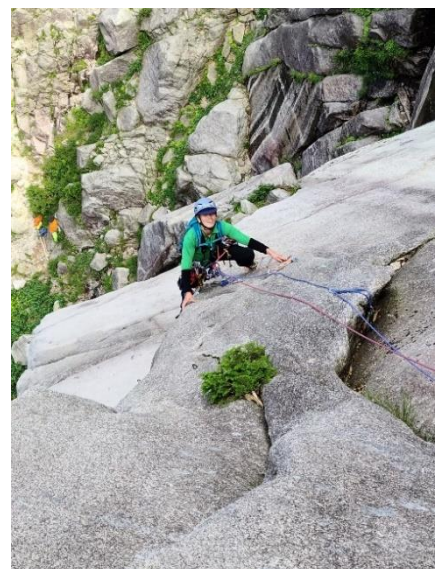
終了点からは懸垂下降2回でバットレス基部に降り立った。(3547)



中尾根バットレス全景。遠近効果で1ピッチ目の赤線が長く見える。実際には各ピッチ同様の長さ



3ピッチ目のフレック状クラック



4ピッチ目。傾斜も緩くなり、終了点まであとわずか